

ニュージーランド自主企画外国派遣研修について

遠藤智樹（宗谷支庁産業振興部水産課）

はじめに

当時の上司の強い勧めもあり、北海道道自治政策研修センターの派遣研修に応募することになりました。水産孵化場の特色を生かし研究職員と行政職員の2名1組で応募し、他の応募者との違いをアピールすることで選考官のハートをくすぐる作戦になりました。

場内で検討した結果、私と道南支場のト部研究職員の組み合わせに決まり、その後、自治政策研修センターが行う面接などの過程を経て無事選考され研修へ行ってきました。

今回私が書かせていただいたのは、研修以外で私が体験したこと、感じたことなどを中心に書いています。（下手な文章で読みづらいですがお許し下さい。）

なお、研修にかかるレポートは別途報告済みですので、誤解の無いようよろしくお願いいたします。

期間：平成18年1月27日～平成18年2月3日

行程：千歳→成田→オークランド→ネイピア→ロトルア→オークランド→成田→千歳

1月27日（金）～28日（土）

1月27日昼、道南支場のト部研究職員とともに真冬の北海道を出発し成田空港から一路、真夏のオークランド国際空港へと旅立ちました。飛行時間は約10時間、機中泊で翌1月28日朝にオークランド国際空港へ到着しました。（この時期の時差は日本時間プラス4時間で現地時間の午前9:00到着。）空港では、入国審査の際に私のミスが原因で審査にとても時間を要してしまいました。機内で記入した入国カードの名前（スペル）の記入を間違っしまい、審査官が「パスポートの記載と合わない。」「何で違う。」「なぜ間違っった。」というようなことを早口で言っていました。しかし、私の英語力では上手に説明することが出来ず、とても苦労しました。そんな、苦難を乗り越えようやく空港ビルの外へでると、そこは真夏の太陽がふりそそぐニュージーランドでした。その後、ネイピア行きの飛行機に搭乗するため国内線のビルへと循環バスで移動しました。国内線のビルはローカル空港という言葉がピッタリの雰囲気、チケットを確認する若い女性は服装もラフ（Tシャツ&ジーンズ）でテーブルに足を乗せたまま搭乗券の確認をしていました。搭乗した飛行機はプロペラ機でシートも狭く窮屈でしたが機内サービスは丁寧でとても良い感じでした。

ネイピア空港に到着（午後1時）、空は快晴、暑い、暑い、とにかく暑い、真冬の国から真夏の国へ来たということを改めて実感しました。空港には通訳兼ガイドの後藤さんが出迎えてくれました。後藤さんは今回旅行を依頼したウェブトラベル社の方です。とても気さくな方で私たちの研修を全面的にサポートしてくれました。後藤さんのおかげで、今回の研修が楽しく快適なものになりました。空港から後藤さんの車でネイピア市内へと移動しました。ネイピアは海辺の町で、とてもきれいな南国のリゾート地という感じです。しかし、車で移動中あることに気づきました。走っている車、止まっている車、そのほとんどが日本車だということです。普通車、商用車、古い車、最新の車等々、道路だけを見ていると「ここは日本か?」と思えるくらいでした。

宿泊は「ジャパママコテージ」という日本人の方が経営している宿です。ネイピア滞在中は、私とト部さんの2名だけで貸し切り状態でした。滞在中の食事は日本人のママさん（60歳位?）が作ってくれました。毎食ボリュームも多く、とてもおいしい食事で、この日の晩ご飯には白身魚の刺身までついていました。

一休みしたあと後藤さんがネイピア周辺を案内してくれました。最初は郊外にあるネイピアを一望できる景色の良い山の頂上（地名忘れまっした。）へ行きました。山頂への道は細く急カーブの連続で、しかもガードレールはありません。対向車が来るとすれ違うのもやっとの感じです。山頂からの景色はとても美しく、ネイピアの街並みや海岸線が見渡せる素晴らしいところで



写真1 ネイピアの風景

した。

次にニュージーランドで一番古いワイナリー（ミッションエステートワイナリー）へ行きました。ちなみにネイピアを中心としたホークスベイ地方はニュージーランドきってのワインの産地として有名な地域です。何種類かのワインを試飲しましたが、私には日本産ワインとの味の違いは分からず、ただ、とってもおいしかった記憶だけが残っています。

次にアラタキハニーというハチミツ工場兼直販所へ行きました。とっても面白いところで、ハチミツの製造工程やハチの種類、生態、花の種類などがパネル展示してあります。中でも生きたハチが活動している巣の中を見ることができる展示コーナーにはビックリしました。巣の半分がガラス張りになっていて中の様子がそのまま見られます。お店はハチミツの種類も多くその他のグッズも多数販売していました。ここはハチミツの試飲が自由で、しかも10種類以上ありその種類の多さに驚きました。（試飲は何度でも何種類でも可能です。）その後、国立水族館へ行き宿へ戻りました。

この時期は夜9時くらいまで明るいそうなのですが、この日は夜8時くらいになると日中の快晴が嘘のように濃い霧の世界となりました。

1月29日(日)

朝6時に起床し海の方へ散歩に行きましたが、昨夜と同じように濃い霧がかかっていた。しかし、この霧は朝8時を過ぎるときれいになり快晴となります。（ネイピアは毎日このような感じでした。）

この日はニュージーランドの釣りを体験しました。朝9時に後藤さんとフィッシングガイドのマリーンさんとともに川へ釣りに出かけました。ニュージーランドは川や湖で釣りをするにはライセンスが必要です。1日有効で\$17位です。ちなみにニュージーランドで釣りをする際はフィッシングガイドを頼むのが良いそう



写真2 釣りの風景

です。釣り場への案内、送迎、ライセンスの確保、食事の準備、道具の用意まで全てをお任せにでき、誰でもすぐ釣りを楽しむことができます。私たちがこの方法でお願いし、全て込みで\$33でした。釣りの成果はというと、私もト部さんも1匹も釣れませんでした。フッキングはするのですが、すぐにバラしてしまいます。ウデのせいかもしれません・・・。

釣りをしていると、竿を持つ手に大きなトンボが留まりました。オニヤンマのような大きさのトンボですが、全く逃げる気配がなく手で簡単に捕まえることができました。ニュージーランドの豊かな自然に触れることができたようで嬉しくなりました。

ただ、この日、日焼け止めを塗り忘れたため帰ってくると顔や手が真っ赤になっていました。ニュージーランドの紫外線の強さは日本の7倍といわれ短時間でもあつというまに日に焼けてしまいます。ガイドブックで事前に確認していたのですが身をもって経験しました。

1月30日(月)

この日、午前はDOCへ、午後はGOFへ訪問しました。（DOC:Department of Conservation(環境保全局?), GOF:Government of Fisheries(水産省?)）

夕方、食事まで時間があるので一人で散歩に出かけました。天気が良かったので、海沿いに整備されているウォーキングロードをケープキッドナッパーズという岬の方向へ片道40分ほど歩きました。夕方5時を過ぎているのに太陽は真上で日差しはとても強かったのですが、吹く風は爽やかで快適に景色を楽しめました。ウォーキングロードは何キロメートル先まで続いているのか分からないほど長く続いていました。（海沿いなのですが日本のように磯の香りが全くしませんでした。）

散歩から帰る途中、暑かったのでマリンパレードと



写真3 海沿いのウォーキングロード

いうストリート沿いにあるアイスクリーム屋さんによりました。注文の方法は日本のアイスクリーム屋さんと同じです。私はそこで「フィジオ」という果実のアイスを食べました。この「フィジオ」は名産品らしく、この時期のニュージーランドでしか食べられないそうです。(どのような果物が本物は見ていませんが・・・)日本では食べたことのない味でとってもおいしかったです。

私は、こちらに来てからパンやパイといった菓子類を何種類か食べましたが、特にジャムやフルーツソースを使ったものがおいしく感じました。

この日はネイピア最後の夜ということもあり、夕食はママさんのお気遣いでとても豪華なものでした。夕食後、ママさんを交え楽しく歓談しました。

1月31日(火)

ネイピアを出発し次の宿泊地ロトルアへと出発しました。この日はネイピア F&G、トゥランギ DOC を訪問しロトルア入りです。(F&G:Fish & Game New Zealand(淡水釣り場の管理運営を行う非政府組織))

時間がないので移動中の車内で昼食をすませるため、ガソリンスタンドでサンドウィッチ等を購入しました。こちらのガソリンスタンドはコンビニの機能も併せ持っています。

ネイピアからロトルアへ向かってくると、牧畜が「ヒツジ」から「ウシ」に変わりました。近年、食肉としての需要や価格がウシなどの方が高いため、ヒツジからウシへ転換する農家が多いそうです。

トゥランギ DOC を訪問しロトルアへ向かう途中、タウポ湖に寄りました。湖では泳いでいる人がたくさんいました。また、湖岸の砂を掘ると温泉が湧き出てくることから多くの人が天然の温泉を楽しんでいました。

このタウポ湖で不思議な鳥を発見しました。姿形は日本で見る白鳥と全く同じなのですが、色が真っ黒なのです。ガイドの後藤さんに聞いたところ「黒鳥」ですよといわれました。現地では「スワン」といっているそうです。(「スワン」=「白鳥」と思っていたのですが色の概念は無いのでしょうか?)

その後、「フカフォール」という大きな滝と、「マッドスプリング」という地獄谷のようなところを見ながらロトルアに到着しました。

宿泊は「ウエストミンスターコテージ」というファームインスタイルのコテージで、とても景色の綺麗な山の中腹に建っています。

2月1日(水)

最後の宿泊地オークランドへ向け出発。途中、ロトルアの孵化場を訪問。



写真4 タウポ湖で見た黒鳥

オークランドへ近づくと車の量が突然多くなりました。(前述したとおりほとんどが日本車です。)また、家と家の間も狭く2階建ての家やアパート群が多く、都会で見る住宅群の風景です。ネイピアからオークランドの間は家も平屋建てで敷地も広く余裕がありましたが都会に近づくとどこの国も同じだな～と思いました。ちなみにオークランドは郊外から市内中心部へ通じる大きな道が限られているため、平日の朝夕は常に7~10 km近く渋滞しているそうです。

オークランド市内で昼食をとり、オークランド博物館へと行きました。荘厳な雰囲気です。すごい広さで、とても1日では回りきれない広さです。駆け足で見回りました。パンフレットは日本人用のものがちゃんと用意されていました。博物館内は、先住民族のマオリ文化に関するものや、絶滅した動植物に関するもの、化石など様々なものが展示されています。ホールの天井には大きなステンドグラスがあり印象的でした。また、第2次世界大戦の慰霊ホールがあり、当時の連合国と反連合国が対比される形で見ることができました。本物のゼロ戦とスピットファイヤーが展示してあり、その横には、当時ニュージーランド軍が管理していた地域に不時着したゼロ戦パイロットの写真や経歴、身につけていたもの等も展示されました。

博物館を見学したあと宿泊するホテルへと向かいました。宿泊は「シーニックサークルエアデールホテル」で泊まる部屋は最上階の1室、ベッドルームが3つあり、しかもテラスまであります。テラスからの眺めは良く、南半球一の高さを誇るスカイタワーもよく見えます。

夕食を市内ですませ部屋でゆっくりしていたところ、外で突然「ドン、ドン」とものすごい爆発音のような音がしました。銃声か?はたまた空爆か?と思いテラスに出ると、スカイタワーの展望フロアの辺りから花



写真6 マウントイーデンから見たオークランド市内

火が打ち上げられていました。予期せぬ光景にあわてて写真を撮りました。(写りは最悪です。) 時間にして15分位でしたが、とても得した気分になりました。なぜこの日に花火が?と不思議に思いガイドの後藤さんに聞いたところ、中国の旧正月にあたるため、そのお祝いの花火ではないかということでした。(スカイタワーの所有は中国系の企業らしいです。)

オークランドで気づいたのが、アジア系の人が多いということ。特に中国人、韓国人、日本人のような人が多く、街中を歩いていても外見では全く見分けがつかずません。それと、夜は日本の暴走族のような車が爆音を響かせながら走り回っていました。

2月2日(木)

この日は朝7時にホテルを出発し NIWA へと向かいましたが、この時間すでに郊外から市内へ向かう道は渋滞していました。

午後2時位にオークランドへ戻ってきました。遅めの昼食を市内で食べました。ガイドの後藤さんの希望でラーメンを食べに行きました。店の雰囲気、店員の接客など日本と全く同じで、ラーメンもおいしくいただきました。ただ、このお店を利用している客のほとんどは日本人と中国人らしいです。

昼食後、オークランド市街地に残る死火山のひとつマウントイーデンに案内してもらいました。噴火口跡にできた小高い丘でオークランド市内と海が一望できる眺めの良いところでした。足下をみると、噴火口跡がアリ地獄のようにすり鉢状になっていました。

その後ホテルへ戻り夕食へ行く途中、オークランドのシンボルとなっているスカイタワーへ行きました。ホテルからは歩いて10分位のところにありました。スカイタワーは無料部分の1~4階を見学し、その後、夕食をとりホテルへ戻りました。この日はニュージーランド最後の夕食なので豪華にしようと言うことで、私はラム・シャンク、ト部さんは牛 T ボーンステーキ



写真5 オークランド博物館

(400g)を食べました。この晩は、帰国の準備をして就寝となりました。

2月3日(金)

日本へ帰国の日です。後藤さんが空港まで送ってくれました。

朝6時30分にホテルを出発し一路、オークランド国際空港へ車を走らせました。早朝にもかかわらず道は車が多く既に渋滞気味でした。

空港では来たときのようなトラブルもなく順調に出国となりました。帰りの飛行機は空いていたのですが、機内が異常に寒くて参りました。

この後は、成田空港~千歳空港~自宅へと何事もなく無事到着しました。

おしまい

ニュージーランドには何の先入観もなく研修にいったのですが素晴らしい風景と自然環境に恵まれた国でした。人種の坩堝のオークランド、日本の温泉地のようなロトルア、美しい街並みのネイピアと3カ所に滞在しましたが、どの街も治安がよく住みやすそうな印象を受けました。

最後に、私たちが暖かく迎え入れてくれた各機関の方々及び本研修において細部にまで配慮いただいたウエブトラベル社の後藤氏に心から感謝申し上げます。

また、このように貴重な経験をする機会を与えてくれた水産孵化場の皆様にも心から感謝申し上げます。

(えんどう ともしき :

宗谷支庁産業振興部水産課漁業管理係長)